



## 「知らない」を探す場

やなぎ あきのり  
柳 彰典

医学部 医学科 4年

山梨大学に入学してから4年近くが経ちました。学科の勉強の合間に、図書館本館で本を探すことは、私の楽しみです。毎回、図書館への道中、今日はどんな「知らない」に出会えるのか、と期待しつつ、自分を落ち着かせながら入館しています。

入館すると、まず新着書架や一般書架の書棚を一通り眺めていきます。タイムリーな話題であるか否かに関わらず、タイトルや背表紙に魅かれた本を手にとり、まえがきなどにざっと目を通します。気に入れば本を借り、家でじっくり読んでみます。そして、私の知らない分野・著者・思想に出会い、啓発されたとき、その本に出会えた喜びを率直に感じます。読書を通じて、医学を含むいろいろな分野で自分の知識の地平線を広げていきたいです。知識が広がって、異なる領域の知識が重なっていたり、繋がっていたりすると、まるで新しい知のクロスオーバーを発見したかのような高揚感を覚えます。

私は、図書館に行くことで「知らない」を探すというルーチンを繰り返しています。それは、私自身がまだ無知である、ということを実感し、新しいものや知らないものを求めているからなのだと思います。

将来、誰も答えを知らない問題に取り組むことになった場合、どれだけ発奮できるかは、それまでの「知らない」に出会った経験によるのではないのでしょうか。あわよくば、その際に新しい知を見出せればと思います。

末筆ですが、図書館職員の皆様によります丁寧なお仕事に対し感謝申し上げます。



## いつでも迎えてくれる場所

くりはら なつき  
栗原 夏希

医学部 看護学科 2年

1年生の時は甲府キャンパス、2年生からは医学部キャンパスの図書館を利用しています。医学分館には、医学・看護系の専門書が幅広く揃っており、疾患や看護ケアについての課題に取り組む際には、多くの本の中から選んで学習することができます。スマートフォンですぐに情報を集められる時代ですが、本は匿名の情報が氾濫するインターネットに比べて正確性や信憑性が高く、正しい知識を得ることができます。

また、特別利用の申請を行えばほぼ24時間利用が可能のため、試験前や実習中は夜遅くまで勉強したり、レポートを書いたりすることができます。他の学校の話聞いても24時間図書館を利用できる学校は少なく、部活動やアルバイトの後にも図書館に行けることはとてもありがたいです。

図書館への要望としては、学習室を防音にしてほしいということと、飲食スペースを作ってほしいということです。図書館資料やAV資料、ホワイトボードを利用してグループでのディスカッション、プレゼンの練習などができる学習室ですが、つい盛り上がりすぎてしまうと部屋の外まで声が漏れてしまい、閲覧室まで響いていることがあります。また、飲食をする際には外に出る必要があるため、図書館の中に気軽に飲食ができるスペースがあると嬉しいです。

居心地のよい図書館の雰囲気を作り私たち利用者を支えてくださっている職員の方々に感謝しながら、利用のルールを守り、これからもたくさん利用していきたいと思っています。